

マンガは哲学する

ながい 均

内容理解

この文章で筆者は、マンガが世の中の成り立ちそのものに潜む問題を提起していることの具体例をあげ、マンガが表現する哲学的問題を深化させる方向を示そうとしている。本文を読み直しながら、空欄に入る適切な言葉を補ってみよう。

私は、世の中で通用している¹ や規範を最終根拠とする主張、その全てをぶち壊すような² の声を聞きたい。ときに、マンガにそれが聞き取れる。

・マンガは、³ の破天荒という点で、他のジャンルを凌駕^{りようが}している。

・マンガには、世の中の成り立ちそのものに潜む問題が、鋭い感覚で提起されている。

・自明とされ、世の中の対立が形作られるものと、その部分が問題化されている。

・マンガという形でしか表現できない哲学的問題がある。

(マンガは子供が読むものだという通念が、大人が読むマンガの中にまで波及していて、大人の⁴ に惑わされない問題提起が許される。)

・私は、マンガにある種の⁵ を求める。

現実を支配する約束事を無視しているのに、内部にリアリティと⁶ を保ち、それゆえ現実を包み込み、むしろそこそが本場の現実だと思わせる大狂気。

私は、マンガに哲学を求める。

例1 佐々木淳子「赤い壁」(夢の中で、自分に固有の夢を失い、迷子になる。)▲……………
(私なら、ちさとの記憶が薄れながら、ちさとの自己意識が育代の身体の中で苦悶する

語句

この文章の中で使われていた次の言葉を使って、短文を作ってみよう。

中途半端 (九〇・二)

自明 (九〇・13)

特有 (九二・6)

融合 (九三・17)

さまを描きたい。私は、自分に固有の夢を通じて初めて自分の現実に戻れるという思想、

7 の夢こそその人の現実の基盤だという思想に、リアリティを感じる。）

例2 佐々木淳子「Who!」（「映像物感触回路の故障」）

（現実が映像である可能性を示している。）

世界が全部作られた。

であったり、夢であったり、幻想であったりするだろうか。

↓まともな人は、そんなことはない、と言う。

↓少し哲学的な人は、ひょっとしたらそうなのかもしれないではないか、と言う。

↓もつと哲学的な人は、そんなことはありえない、と言う。

（なぜなら、映像とか夢とか幻想といった概念は現実の内部で起こる事象を区別するためのもので、現実そのものには適用できないから。）

↓もつともつと哲学的な人は、このマンガのような状況では、その概念が現実そのものに

9

適用できるのではないか、と疑う。

↓もつともつともつと哲学的な人は、このマンガで一人残っていた女性は現実と外部にいることになり、映像とそうでないものを再定義する必要があると言いたくなる。

もつともつともつともつと

10

的な人が、どこまでもいるだろう。

要旨

筆者の考えの中で最も大切と思われることを、指定された言葉を使って、百字程度の文章にまとめてみよう。
〈指定語——マンガ・規範・現実〉

発展

次の中で興味を持った事項について、図書館の書籍やインターネットなどを使って調べてみよう。

・佐々木淳子のマンガ「赤い壁」は、どのようなストーリーなのか。

・自分が好きなマンガの中で、提起されていた哲学的な問題はどのようなものか。

・ニーチェの哲学とは、どのようなものか。

100